

### 胆 石 と 癌

Gallstones and the risk of cancer:  
A. B. Lowenfels (Gut 21: 1090~  
1092, 1980)

胆石と胆道系の癌との関連は周知の事実であるが、胆石が食事を介して大腸癌と関連があるかもしれないことが示唆されている。胆石はコレステロールから成るので、胆石と腸癌の関連が、腸癌の原因としてのコレステロール・胆汁酸説を支持すると考えられる。

著者らは、胆石と癌の問題を解明すべく、諸国の胆石の頻度と癌死亡率の相関を調査した。それによる

と、胆石の剖検による頻度と大腸癌とは、著明な正の相関をみ、胃癌との正の相関を15カ国で認めている。女性では、胆石と子宮癌が関連を示した。28カ国において、年齢補正胆嚢炎死亡率と年齢補正癌死亡率との間に相関が認められた。

胆石と子宮癌の相関は特に強い。子宮内膜癌の女性での胆石の増加は、既に発表された他の報告と一致している。

胆石と大腸癌の相関も著明である。コレステロールの分泌の増加が、胆石の原因として考えられ、そしてコレステロールが胆汁酸の一大源であるゆえ、大腸癌の原因として

のコレステロール・胆汁酸説をこの研究が支持している。

胆石と胃癌の相関は予期しなかったことで、説明が十分つかないが、胆石の頻度の高いことで有名なアメリカ南西部の Pima Indian に胃癌が多いことと一致するのは興味ある事実である。

これらの知見は、直接の因果関係をほのめかすものではないが、胆石と人間に起こるいくつかの癌との間に共通の risk factor (危険因子) の存在が示唆される。

(愛知県がんセンター第1内科

小林世美 抄)